

プロジェクトマネジメント

「プロジェクトマネージャー（以降PM）は私の天職だ」。プロジェクトの成功を祝う会で、お客さまから「君と仕事してよかった」と喜んでいただいたその瞬間、私の頭の中を『天職』という言葉が駆け巡っていた。スタートはITエンジニア、当時開発が盛んだった銀行オンラインシステムの構築を担当する組織に配属された。若い頃は人に認められていたような仕事でなかったと思う。転機はそれから15年余りたつて訪れた。大規模なデータを管理し

凛としていきる

理系女性の挑戦



私にとってPMは「天職」

活用するシステム構築の案件でプロジェクトマネジメントに出会うことだった。全体で1万人月を超えるプロジェクトをお客さまとともに管理して推進していく、そこにはIT

スキルも必要だが、同時に。ITはもとより、時にプロジェクトマネジメントのスキルが求められた。知識がないではすまされない。社内研修を受け、教科書ともいえるPMBOOK（プロジェクトマネジメント知識体系）を読み込み、身近なPMの仕事を見て学ぶ日々が続いた。

どのようなスキルであっても基礎が重要で、そうでなければ応用は身につかない。プロジェクトチームとのコミュニケーション

さて、ここまでで理系とか女性とかいうキーワードは出てこない。ここに書かれていいるキャリアに理系や女性という要素は一切ないからだ。ITエンジニアであるが大学は文系学部であったし、PMとして仕事をするときに女性を意識したことはない。数学好きの高中生であったこと、3人の息子を産み育ててきたことが、ひとりの人間としての私の何かにはなっているだろう。女性であることでチャンスに恵まれたかもしれない。

どのようなスキルであっても基礎が重要で、そうでなければ応用は身につかない。プロジェクトチームとのコミュニケーション

そして、成功に導けたときの充実感も知ることができない。それらを経験しPMという仕事を『天職』と思うことができたのは、とても幸運であった。

ただ、成果が問われるPMとしてその後も多くのプロジェクトを

任せていただいた。これは何か他の要素によるものだろう。だから、仕事は面白いのである。 企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）



曾和 信子

日本IBM理事 日本IBMサービス社長